



『ベーリング海峡埋立ての大計畫』 ソヴェト・ロシアのベーリング海峡埋立計畫案はウオルグが、ドン兩河間運河開さく計畫に劣らぬ大計畫としてロシア専門家によつて眞剣に研究されてゐたが、十三日のウラツォ放送はベーリング海峡埋立案に關聯して實地調査を行つたボローニン技師の報告を次の如く發表した。

『ロシアのシベリア、アメリカ連絡鐵道計畫の一部を爲すベーリング海峡連絡問題は最初海底トンネル案および大鐵橋架設案の二案があつたが、何れも時代に適せず、今やベーリング海峡の埋立計畫がもつとも合理的なりとの結論に達した。海峡には幾多の島あり、かつ最深海底五百メートルに過ぎず、これが埋立に要する經費は五億金ルーブルと計上され、この埋立計畫のもつとも重大なる意義は暖流と寒流に大變化を及ぼし、シベリア大陸の氣候が暖流によつて溫暖地帯化する點にある』

と因に右ボローニン技師はかつてムルトン鐵道建設に際し埋立工事に實際の經驗を有つて居ると

○關門隧道中止 關門連絡トンネル工事の起工は他の急速を要する改良工事に豫算が不足の現状を以てしては到底實現は困難とされこれがため同連絡工事で特設せられた關門派出所を近く閉止する事に内定した。

『物見隧道進行順調』 鳥取と津山となを連繼する國鐵因美線の最難工事である物見隧道は一昨年十月着工以來工程順調に進捗し最近迄に鳥取側約五百六十米、津山側約一千三百米の箇所迄掘鑿してある。従来より同所にて掘鑿に使用しつゝある方法はオーストラリヤ式になるものであるが現在では一日南北共三米強づゝ進行中である。尙今後この調子にて進めばいよゝ明年三月末には貫通する豫定であ

工事タイムス

和昭五年九月號

る。

『丹那隧道進行狀況』 國鐵熱海丹那トンネル東口は藥液とセメントの併用にうまく成功して見事湧水の多い斷層を突破して目下一日七尺前後を掘進し西口は湧水が土砂を流出して自然と堆積した爲めにさしにも激しかつた湧水も自然に止まり都合よく運んであるのでいよゝ近く再掘進を始めることゝなつた。

『高架線のスパン利』 大阪市の大事業たる都市計畫は目下着々と進捗し右の中梅田十三線堂島大橋十三線の間に架設せられる鐵筋コンクリート造の高架線は前者は中津から幅十五間の高架を以て十三橋に至り、後者は大仁から同十五間の高架を十三橋に至るものであるが、目下市土木部工務課に於いては其の高架線の各スパン間の空間を如何に利用するかと云ふ事に就き考究中であるが、案としては自動車ガレージ、倉庫、店舗等があるが近く決定されるものと思はれる。

『大阪地下鐵の工事進捗狀況』 大阪市高速電氣軌道工事は本年一月起工以來第一回起債僅々八百十四萬五千五百圓を以て失業救済を加味し施工區域も大江橋市廳前、淀屋橋、本町間零哩九〇に縮少され地下道掘鑿工事に取懸つて居るのみであるが去る五月市會の決議を経て主務省に申請中の起債一千三百萬圓が認可さるれば現在の『穴を掘るだけ』の状態を脱して積極的に進捗を計る豫定である。

尙右區間内の地下停留場は大阪驛前△淀屋橋南詰△本町四丁目△心齋橋南詰の四箇所て工事豫定は右停車場の建設舗裝及び電車製作（鋼製百二十人乗のもの）變電所一箇所建設等である。

カ ッ ト 説 明

竣工近き日本海電氣小川口發電所壘堤(土)と小川口發電所全景。(51頁)

斯くして取り敢ず昭三七年までには大阪驛、心齋橋間に地下電車を開通させやうといふのである。

鐵道隊の援助で超スピード進工 日下着々と工事進捗中の參宮急行電鐵は東口宇治山田松坂間西口櫻井榛原間は既に竣工し、殘工事に對して着々と進工が續けられてゐるが同線中の最難工事と稱せられてゐる青山トンネル二哩一分も最近漸く竣工し八月初旬引渡を行ふ事となつた。

次は施行中の難所と目されてゐる青山登山道から阿保町に通ずる線路敷設であるが、之には現在使用してゐる土工二千餘名の外千葉鐵道聯隊の下士卒約三百名が演習の爲め出勤する事となつたので、近く超スピードを以て進捗を計り以て全長六十哩工費三千六百萬圓を要した大工事も本年末迄に全部竣工せられる見込である。

禮泉安東間を九月上旬起工 朝鮮鐵道會社の禮泉—安東間に對する延長工事は經濟線として安東迄延長しなければその價值を發揮することが出來ないので、かれて同社側では極力研究を進めつゝあり、一方安東、禮泉間兩市民の切實なる希望もあるのていふへ同社にはこれを斷行することゝなつた。該區間の延長約二十マイルこれに對する工費約二百五十萬圓であるが近く各部課毎に工事入札を行ひ九月上旬頃より線路敷設工事に着手せられることゝなつた。

全世界の發生電量 最近英國で調査された、現在全世界に亘る電氣年發生量の概算數字は三千億キロワット時と發表され其内で北米合衆國が四割一分を占めて居る。第二位はドイツの三百四十億キロワット時であつて、之に續くのはカナダの百八十億キロワット時である。グレートブリテン及フランスは兩者略相等しく百六十億キロワット時であつて第四位を争つてゐる形である。茲に注目すべきものはカナダであつて、同國の人口が一千萬人以下であるにも拘はらず前述の如き高位を占めてゐる事であるが、同國は大水力の開発が容易である地勢の關係もあり 又一部分はパルプ及製紙工業に依りて莫大な電力が消費されるからである。カナダでは電氣エネルギー發生の約八パーセントを北米合衆國に輸出してゐる。

丸沼一ノ瀬兩貯水池工事 上毛電氣株式會社では計畫中の發電所に丸沼、一ノ瀬兩發電所のあることは既報の如くであるが、右は利根川支流

大瀧川上流の菅沼及丸沼大尻沼を貯水池として利用するものである。同社では目下この貯水池工事に専念從事してゐるが来る十一月中には竣工のはごびに至る筈であると、今該貯水池工事の概況を記せば丸沼發電所に利用する菅沼貯水池は堰堤の高さ二〇尺長さ四〇尺、有効水深五十尺、貯水量三億六千萬立方尺、更に丸沼發電所工事着手の場合にこれへの隧道は百八十間である。而してこの貯水池によつて湯水時三十三個の水量増加を來し得るものである。次に一ノ瀬發電所に利用する丸沼及大尻沼貯水池は堰堤の高さ一一二〇尺、長さ二二〇尺、有効水深八〇尺に及び貯水量四億七千萬立方尺、一ノ瀬發電所への隧道は現在一二四間だけの工事竣工を見せてゐると、猶丸沼の方の堰堤は中空式堰堤でこの貯水池によれば湯水時七十五個の水量増加を來し得るものである。上毛電力はこの兩貯水池の完成後約一十年の後にいよいよ丸沼、一ノ瀬發電所の工事に着手するものである。猶將來同社は大瀧川下流に於て白根、東小川、鎌田等の豫定發電所を控えてゐる菅沼より鎌田に至る總落差は實に三千尺に達すると。

